

日本文学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

文学部日本文学科は、日本文学に関する学識を修め、多様な現代社会に対応できる能力を有する人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

日本文学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（日本文学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識を総合的・体系的に修得し、日本の文学や言語・文化の問題に関して専門的な知見を身につけている。
- (2) 日本の文学と日本語に関するさまざまな時代の文献や資料を的確に読解することができる。
- (3) 専門的な情報を集めるスキルを修得し、それを活用する能力を身につけている。
- (4) 日本語文法や文章表現法に関する基礎的な知識を修得し、口頭または文章で自身の考えを発表するために必要な語彙力・表現力を修得している。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 問題を発見し、解決するために必要な論理的思考力を身につけている。
- (2) 他者との議論を通して、自身の考えを深めようとする態度と能力を身につけている。
- (3) 専門的な問題に関する自身の考えを、一貫性・体系性を備えた文章で論理的に表現できる。
- (4) 各時代の文学作品に関する批評能力や鑑賞力を有している。または、各時代・各地方の言語の特質を理解できる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 他者と協同して、積極的に問題に取り組み、その解決をはかろうとする姿勢・意欲を身につけている。
- (2) 社会の現状に対して問題意識を持ち、その改善や向上に寄与しようとする姿勢・意欲を身につけている。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 異文化や異質な他者を尊重し、理解しようとする態度・意欲を身につけている。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

日本文学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 日本の文学と言語・文化に関して、体系的・通史的な知識や素養を身につける。「日本文学史概説」「日本語学概説」など。
- (2) 古代から近現代にいたる各時代の文献や資料を読解する能力や、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。「日本文学講読」「日本語学講読」、各分野の「特殊講義」など。

- (3) 4 年間を一貫する少人数制の演習科目の履修を通して、問題発見・問題解決の能力、論理的思考力、文章表現力、口頭発表力、情報検索・情報分析の能力を養う。また、共通の課題に取り組むことを通して、自身と価値観や見解を異にする他者と向き合い、いかに協同するかを学んでいく。「日本文学基礎演習」「日本文学演習」、各分野の「演習」（ゼミナール）。
- (4) これまで修得した知識や技能、文学作品を批評・鑑賞する能力や言語の特質を理解する力をさらに発展・応用させつつ、卒業論文という成果にまとめ上げる。
- (5) 外国語科目や比較文学・文化関連の科目、全学共通科目の履修を通して、幅広い知識や素養を身につけるとともに、異文化に対する理解を深める。「比較文学・文化特殊講義」「比較文学・文化演習」「基礎教育科目」（外国語）など。

2. 教育方法

- (1) 知識の教授を目的とする教育内容に関しては、講義を中心とする授業形態をとるとともに、問題発見・問題解決の能力、技能修得などを目的とする教育内容に関しては、演習形式の授業形態をとる。
- (2) 基礎から発展へと体系的な学習が可能となるように、科目を配置する。
- (3) 初年次の日本文学基礎演習においては、入学以前の国語力の不足を補いつつ、文学研究の方法を学ぶ導入教育を行う。
- (4) 1 年次から 4 年次まで一貫して少人数の演習科目を配置し、教員や受講生の間の討議を中心としたインタラクティブな教育を実践する。
- (5) 科目として「卒業論文」の時間を設け、主題や構想の検討などから文章添削に至るまで、教員（原則として 3・4 年連年演習の担当教員）と協議し、その指導の下に取り組んでいく。
- (6) 比較文学・文化の科目やゼミナールを用意するとともに、留学制度（協定校留学・奨学金派遣留学）の積極的な活用を推奨して、グローバルな視点から日本の文学と文化を見直すよう促す。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力に関しては、卒業要件達成状況、すなわち規定の単位数を取得したかどうかによって判定する。
- (2) 各科目に関しては、シラバスを通して成績評価基準を明示し、それに基づいて厳正な評価を行う。
- (3) GPA 制度を導入して、客観的な評価基準を適用する。
- (4) 3・4 年次連年の演習科目は、テーマや課題に対する受講者の取り組み方、問題発見・問題解決の能力、プレゼンテーション力などを総合的に評価する。
- (5) 卒業論文は、論文内容を中心に、それまでの勉学の成果や態度などを多角的に検討して評価する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

日本文学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 日本文学科の専門科目を学ぶ上で必要な基礎学力を有する者。特に、現代文と古文のテキストを読み込み、主体的な解釈を施すことができる知識と理解力を身につけている。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 論理的な思考力を身につけ、自身の考えを的確に表現できると同時に、他者との対話の中で自分の主張を批判的に振り返り、さらに深めようとすることができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 古代から現代にいたる日本の文学や言語、文化に深い関心を持ち、体系的かつ専門的な知識の習得に積極的に取り組み、その学習を通じて高い教養と豊かな人間性をはぐくもうとする意欲がある。
- (2) 創造的思考とコミュニケーション能力を発揮し、他者と協力して積極的に問題に取り組み、その解決をはかろうとする意欲がある。

アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 (大学入学共通テスト 利用 (前・中・後))	学力試験	●		
一般選抜 (全学部統一 (前・後))	学力試験 (国・英)	●		
一般選抜 (3教科)	学力試験 (国・英・選択)	●		
一般選抜 (英語民間試験活用 総合評価型)	外部試験スコア (英語)・事前課題論 文・書類審査	●	●	●
総合型選抜 (自己推薦 (併願可能型・専願型))	基礎確認テスト (古文)・口頭試問・ 自己推薦書	●	●	●
学校推薦型選抜 (指定校) (スポーツ)	書類審査	●		●
学校推薦型選抜 (公募制)	口頭試問・小論文・ 書類審査	●	●	●
特別選抜試験 (社会人・留学生)	口頭試問・書類審査	●	●	●